言葉の力 (1)

大岡 信

人はよく美しい言葉、正しい言葉について語る。しかし、私たちが用いる言葉のどれをとってみても、単独にそれだけで美しいと決まっている言葉、正しいと決まっている言葉はない。①ある人があるとき発した言葉がどんなに美しかったとしても、別の人がそれを用いたとき同じように美しいとはかぎらない。それは、言葉というものの本質が、口先だけのもの、語彙だけのものではなくて、それを発している人間全体の世界をいやおうなしに背負ってしまうところにあるからである。人間全体が、ささやかな言葉の一つ一つに反映してしまうからである。

（中略　あるとき筆者は、染織家の志村ふくみさんから、桜の花が咲く直前の頃の黒っぽい樹皮から、美しいピンクの色がとれるという話を聞きます。）

花びらのピンクは、幹のピンクであり、樹皮のピンクであり、樹液のピンクであった。桜は全身で春のピンクに色づいていて、花びらはいわばそれらのピンクが、ほんの尖端だけ姿を出したものにすぎなかった。

考えてみればこれはまさにそのとおりで、木全体の一刻も休むことない活動の精髄が、春という時節に桜の花びらという一つの現象になるにすぎないのだった。しかしわれわれの限られた視野の中では、桜の花びらに現れ出たピンクしか見えない。たまたま志村さんのような人がそれを樹木全身の色として見せてくれると、②はっと驚く。

このように見てくれば、③これは言葉の世界での出来事と同じことではないかという気がする。言葉の一語一語は、桜の花びら一枚一枚だといっていい。一見したところ全然別の色をしているが、しかし本当は④全身でその花びらの色を生み出している大きな幹、それを、その一語一語の花びらが背後に背負っているのである。

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ——線①「ある人が……かぎらない」とあるが、この理由を述べている文を本文中から二つ探し、最初の五字をそれぞれ答えなさい。ただし句読点も字数に含む。

□□□□□・□□□□□

(2) ——線②「はっと驚く」のはなぜか。適当なものを選びなさい。

ア 桜の花びらに現れ出たピンクは、われわれの視野に入りにくいと気づかされるから。
イ 桜の花びらに現れ出たピンクは、春にしか見られないものなのだと気づかされるから。
ウ 桜の花びらに現れ出たピンクは、樹木全体の色が現れたものだったのだと気づかされるから。

〔　　〕

(3) ——線③「これは言葉の世界での出来事と同じことではないか」とあるが、これはどういうことか。適当なものを選びなさい。

ア 桜の花びらの色は樹木全体の色が姿を現したものであるように、言葉の一つ一つはそれを発する人間全体を背後に背負っているのだということ。
イ 桜の黒っぽい樹皮は桜のピンクの花びらとは色が全く異なるように、ある言葉とそれを発する人間とは全く別のものであるということ。
ウ 桜の木の活動はその一部しか人間の目には見えないように、一語一語の言葉からはそれを発する人間のことはわからないということ。

〔　　〕

(4) ——線④「全身でその花びらの色を生み出している大きな幹」は、言葉の世界では何に当たるか。適当なものを選びなさい。

ア その言葉が用いられる社会の全体。
イ その言葉自体がもつ全ての意味。
ウ その言葉を発している人間全体。
エ その言葉を話す全ての人たち。

〔　　〕